

PHD LETTER

98

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

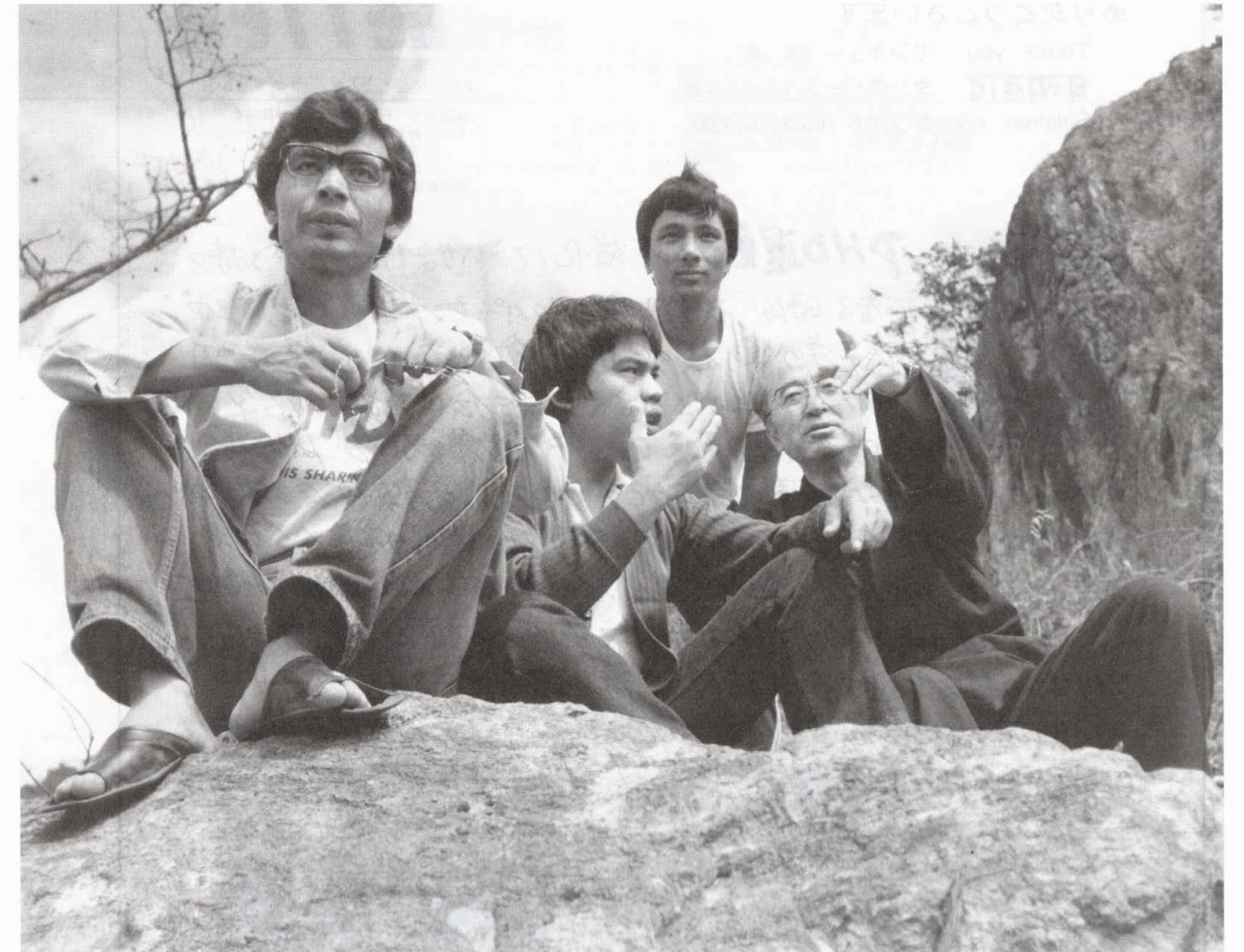
2006.3

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和（Peace）と健康（Health）を担う人づくり（Human Development）をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行： 財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人： 藤野 達也
住所： 〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E-mail: phd@mb1.kisweb.ne.jp
URL: http://www.kisweb.ne.jp/phd
定 価： 100円
郵便振替口座： 財団法人ビー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688

● 岩村昇先生 逝去

- PHD LETTER 1号巻頭
- 史子夫人インタビュー
- 今井理事長インタビュー
- 感謝と送別の会から



撮影 FUJINO T.

はじめての研修生がネパールとフィリピンからやってきた。日本語のコースを終え、丹波篠山の農文塾での合宿から本格的な研修が始まった。

岩村先生も作務衣で参加。

裏山に登り、岩の上で語り合う。

24年前のこと。

PHDの活動の提唱者であり、PHD協会理事の岩村昇先生が、2005年11月27日、急性呼吸不全のため78歳で亡くなりました。広島で被爆したことから医療の道を進み、ネパールで18年にわたり結核対策を中心に、医療活動にあたりました。その経験から地域の課題解決への取り組みとして「人づくり」の大切さを実感し、帰国後、PHD協会を設立しました。

会報「PHD LETTER」は、1982年5月15日創刊され、第1号巻頭に、岩村昇先生直筆の手紙を第1面に掲載しました。今一度先生の言葉を振り返りたいと思います。

ありがとうございます

Thank you サンキュー (英語)
धन्यताद दानネバード (ネパール語)
Salamat pō サラマト ポ (タガログ語)

PHD LETTER

発行 (VOL.1) 57年 5月 15日

編集発行 PHD財団・PHD協会
〒650 神戸市中央区元町通5-2-3
甲南サンシティ元町ビル
電話 神戸078-351-4892
郵便振替 神戸9-23625 PHD基金事務局



PHD運動も本格化してまいりました。“自分の持つて居る時間、技能、財の10パーセントを献げて、アジア南太平洋の草の根の人達が貧困と病いの悪循環から自力で立ち上がれるようお手伝いをしよう!!”という呼びかけに反応して、神戸市内外の有志がPHD協会事務局の運営の為に、交替で出かけて下さったり、兵庫県丹波の有志が農文整の様に汗を流して下さったり、兵庫県内外の沢山の有志が寄せて、現在はネパールから2人、フィリピンから2人の研修生を迎えることが出来るようになりました。又、農文整関係の有志が自費でネパール、フィリピンの村に出かけて下さり、現地の生活を体験して下さいました。

ここまで全てが、自発、自主、自立で行われました。これは素朴な原則であります。**PHD運動**は、“いつでも、どこでも、だれでも”が参加出来る“自発、自主、自立”をモットーとしています。それで初めて、日本の隅々までひろがり、日本からアジアに、アジアから世界に広がるのであり、100年ウツクのであります。

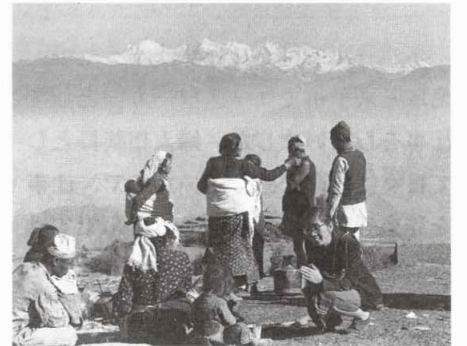
そこでおねがいがあります。“いつでも、どこでも、だれにでも”出来る**PHD運動**のアイデアを提供して頂きたいのです。例えば“アジア南太平洋の貧しく病める人達の為に1円募金”とか“ホイ捨て空き缶を拾い集めてPHD募金に!!”などが、現在迄に出ているアイデアであります。どうぞよろしくおねがい致します。 岩村昇

生きるとは 分かちあうこと 弱き者と

岩村 昇



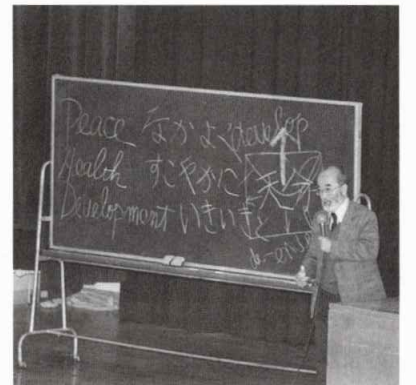
ネパール時代の岩村先生



史子夫人も笑顔で (右側)

略歴

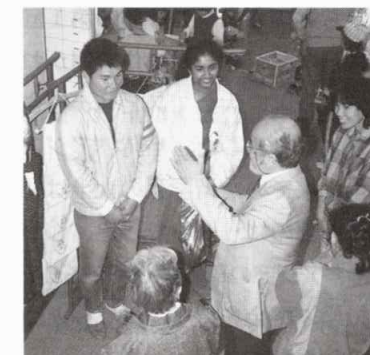
- 1927年5月26日 愛媛県宇和島市に生まれる
- 45年 広島で被爆
- 47年 旧制松山高等学校編入
- 54年 鳥取大学医学部卒業
- 60年 鳥取大学医学部助教授
- 62年 日本キリスト教海外医療協会 (JOCS) よりネパールへ派遣
ネパール合同ミッションでタンセン病院に3期
公衆衛生ディレクターとして2期
国内活動及び海外プログラムディレクターとして2期
- 80年 帰国 神戸大学医学部国際交流センター教授
- 81年 PHD運動を提唱、PHD協会設立
国際ロータリー第一回国際理解賞受賞
- 86年 JICA 専門家としてタイ マヒドーン大学へ
- 88年 帰国 体調をみながら、企業の嘱託医、大学の講師を務める
- 93年 マグサイサイ賞 (国際理解部門) 受賞
- 02年 ネパール、バクタプールに岩村記念病院開設される
- 05年11月27日 兵庫県三木市で逝去 享年78才



講演先の高校で。1982年頃



PHDの良き理解者であった坂井時忠兵庫県知事とラジオ番組の収録。1982年



第5期研修生のコマさんとニョラカシティさんと一緒に。1987年



PHD20周年記念行事で、研修生たちと語り合う今井理事長、岩村先生。左からラダさん (第2期)、アリさん (第5期)、サビトリさん (第15期)、ピスタさん (第1期)。2001年

テーさん (タウンティンテー)

ビルマ・男性・34才

真柴三幸 (兵庫県佐用町)
高砂市保健センター (高砂市)
片岡良 (滞在/同上)
森岡邦造 (滞在/同上)
神吉道子 (調整/同上)

ロナルドさん

(ロナルド・ザモラ・モラレス)
フィリピン・男性・27才

吉田吉彦 (兵庫県丹波市)
のりたま農園 (篠山市)
尾崎食品株式会社 (神戸市)
三木市総合保健福祉センター (三木市)

マスラルさん (マスラル・アリソン)

インドネシア・男性・31才

兵庫県有機農業研究会 土壌分析講習
西日本三菱農機販売株式会社 兵庫支社
篠山支店 (兵庫県篠山市)
岩下八司 (滞在/同上)
丹南健康福祉センター (同上)
青木芳信 (滞在/同上)
山岸永子 (調整/同上)

<敬称略>

共通研修

コープこうべ・みずほ協同農園 (兵庫県三木市)
生協なでしこ歯科 (口腔衛生研修/神戸市)
林業体験合宿枝打ち (篠山市)
コープこうべ (神戸市)
旅路の里 (釜ヶ崎の歴史と現状/大阪市)
淡路島モンキーセンター (残留農薬の被害等/兵庫県洲本市)
山口勝弘 (有機農業・果樹/南あわじ市)

東日本研修旅行 (2005/11/16~11/25)

<愛知県>南山学園南山高等・中学校女子部
~南山短期大学~アユス東海・宝泉寺~<三重県>長良川河口堰見学~<岐阜県>国際ソロブチミストかかみ野~<愛知県>人間環境大学~<静岡県>東海大学海洋学部~<神奈川県>もみの木クラブ交流会~鎌倉中央公園を育てる会~安国論寺~<東京都>全日本自動車産業労働組合総連合会~ロータリー米山記念奨学会~日本労働組合総連合会~アユス仏教国際ネットワーク・勝楽寺~恵泉女学園大学~<山梨県>山梨YMCA~日本基督教団信徒大会~<長野県>日本基督教団松本教会~塩尻めぐみ幼稚園~<岐阜県>日本基督教団中濃教会~<愛知県>トヨタ自動車労働組合~<岐阜県>多治見養正公民館

西日本研修旅行 (1/12~1/27)

<宮崎県>宮崎西ロータリークラブ~<鹿児島県>かごしま有機農業生産組合~だるま保育園~<熊本県>ほっとはうす~<鹿児島県>出水交流会~<熊本県>水俣病センター相思社~菊池恵楓園~<大分県>大分南高校~<福岡県>日本キリスト教団福音伝道所~庄内小学校~庄内生活体験学校~祝町小学校~高槻小学校~旭ヶ丘会館交流会~<山口県>梅光学院大学・高校~<広島県>平和学習~共生庵~三良坂小学校~日影館高校~三良坂交流会~<島根県>西福寺交流会~松江交流会~<岡山県>千屋小学校~岡山YMCA~足守産業廃棄物学習~行幸小学校

兵庫県内研修旅行

2/19<滝野町>加東郡連合婦人会
2/20<養父市>但馬農業高等学校~但馬交流会
2/21<宍粟市>宍粟市連合婦人会
2/26<丹波市>春日町交流会
3/1<篠山市>篠山ナマステ会
3/5<高砂市>高砂にPHD研修生を迎える会
<敬称略>

うれしかった。~帰国を前に



ロナルドさん テーさん

マスラルさん

私は、農業だけでなく日本の社会問題とか公害のことを勉強しました。日本も大変と思いました。村に帰ったら、日本で勉強したことなかでいいなあ、できるなあと思うことをグループの中でやりたいと思います。
(ロナルドさん)

淡路島モンキーセンターで指、手、足の猿を見ました。餌にあげた外国の大豆やピーナッツのせいかもしれないと聞きました。それには農業が使われています。日本で勉強した有機農業は私のためだけでなく、村の人たちのためとても役立ちます。
(マスラルさん)

日本の人とたくさん話すことができる。わからなかったらわかるまで説明してくれました。農業のことだけではなく、日本の生活、大変な人からお金持ちまでよくわかります。幸せはお金だけではなく心も問題になっていると思います。帰る時にはいいこと(心)を持って帰って、悪いこと海に捨てます。
(テーさん)

研修生レポート

たくさんの学びと交流がありました。



足守ゴミ問題の説明を受けています。元職員の逸見さんも一緒に。(岡山市)



「エコパーク水俣」は、水俣湾を埋め立てて水銀を封じ込めたところです。そこには、お地蔵様がたくさんあります。病気で苦しんだ人々のことを忘れない、そんな思いが込められています。(熊本県水俣市)



2005年7月に完成した平和記念公園南側にある平和の門。49カ国の言葉で「平和」と書かれています。研修生たちも自分の国の言葉を探していました。世界平和への祈りを感じます。(広島市)

手探りの中での1年・・・

23期研修生は男性3人、希望する研修内容も全員農業ということで、6月から11月の農繁期にできるだけ多くのことが学べるようにと、研修は有機農業を中心に計画しました。

手探り状態の中で、可能な限り本人の希望に合う研修を組めるよう努めてきました。言葉の壁や生活習慣の違いから、研修生が100%満足することは難しいにしても、この期間に日本の有機農業を経験し、そしてそれを取り巻く世界を見聞きた事で、少なくとも帰国後の自分達の活動の参考となるヒントを幾つか見つける事ができたのではないかと考えます。

11月の東日本研修旅行を挟み、12

月には男性にも保健衛生の研修を組み入れました。現在は男女の役割分担がはっきり分かれている村の生活ですが、これからは男性といえども保健衛生に関する基礎知識を養い、女性と共に協力して、村の健康に貢献してもらおうというのが狙いです。

保健衛生という言葉にピンとこず、始めは戸惑っていた研修生も、研修が終了するとその大切さを実感し、短い期間にもかかわらず、多くの事を学ぶことができたようでした。

PHDの研修生として自分達に求められている役割を今一度見つめなおし、帰国後は日本で学んだことを活かしながら、それぞれの仲間たちと共に生活改善の為に頑張ってもらいたいです。

高垣隆博

研修生サポーター大募集!!!

担当職員と共に研修生を支え自らも平和と健康を担う一人となるための経験を積むサポーターを募集します。農業・裁縫・教育分野の経験があれば歓迎ですが、特別な専門知識、経験が無くても可。
日・時間帯は相談の上。協会事務所から研修先の交通費は当方負担。傷害保険加入。

有機農産物の流通ルートは

今年も1月中旬から約2週間の西日本研修旅行に出発。これまでは作物の栽培に関する研修中心でしたが、今回はその販売方法を学ぶために、鹿児島で有機農産物の販売で21年の歴史を持つかごしま有機農業生産組合を訪れました。

研修生の国ではまだ、有機農産物の販売システムが確立されておらず、他の野菜と同じルートで販売するため、品質が良くても価格面で劣勢となり、収入に結び付けるには難しい状況です。その為、今後は栽培するだけでなく、販売の方法についても考えていかなくてはなりません。

そこで、この生産組合の直営店“地球畑”では、店舗見学をしながら店長から組合の歴史やそのシステム、そして運営に関する問題点についてお話を聞きました。

研修生は野菜の仕入れや販売、提携農家との関係や日本の有機野菜の認証システムのことなど、今まで疑問に思っていたことを解決すべく質問をしていました。特にロナルドさんは認証マークとそのシステムについて深く関心を示し、日本語の資料に目を通す姿も、見られました。

今回の訪問では、改めて組合の設立や有機農産物販売の難しさを実感した一方、組合職員の方からも良いアドバイスを受けました。

差別の原因を考える

熊本では水俣での学習に引き続き、ハンセン病の国立療養施設としては最大規模である恵楓園を訪問。

当日はあいにくの雨模様でしたが、入所者の方の案内で広い園内を当時の様子も交えて解説していただきながら、施設を見て回りました。かつて入所者の方達が働いていた農園だった場所(現

在は公園)や住まい、監禁小屋や広い敷地を取り囲む高い壁などを見学すると、そこは療養施設とは名ばかりの隔離施設であったことが伺えます。

1時間ほどの見学の後は、施設内の交流室で引き続き体験談を聞かせていただき、恵楓園の歴史、当時の社会の様子や国の政策を学びました。

そしてハンセン病に対する正しい知識を得、間違った認識から引き起こされる社会問題の深刻さについて考える機会となりました。

研修生からも質問が出、当時の日本の大きな問題に強く関心を示しました

誰が出したゴミ?

この西日本研修の最後となる岡山では、研修生にも身近な問題であるゴミについて勉強しました。

岡山市北部に位置する足守地区は、もともと虫が生息するほど美しいとこ

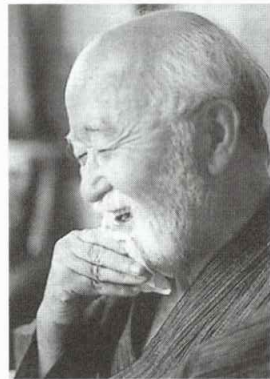
ろだったそうです。しかし、空港建設により道路が整備され、利便性が良くなったこと、山林所有者の高齢化が進み、山を手放すしか無い状況が生まれたこと等が起因して、産業廃棄物最終処分場・焼却処分場ができ、不法投棄までも起こりました。その結果、悪臭と黒い汚水が流出しました。

当然、自然環境や農業への影響も心配されます。マスラルさんは、近くにある田んぼを見て「あそこで作るお米は誰が食べますか?私は、食べたくないです。」とポツリ。この問題に取り組んでおられる福谷エコクラブの加治谷悠紀子さんは、「まわりまわっていつかは自分(不法投棄した本人)に帰ってくると思います。不法投棄することは、天に向かって唾をはいているようなものですよ。」この言葉は、研修生たちに大きく響いたことでしょう。

東西南北
問題解決
取組日記

岩村先生 天に召される

前号PHD LETTER発送直後の11月27日、PHDの活動を提唱した岩村昇先生がお亡くなりになった。PHDが始まって25年目だった。前日の午前中に兵庫県三木市のご自宅でお客さんのお相手をされた後の昼食時、急に具合が悪くなり病院へ。一旦持ちなおされたものの、翌朝に呼吸不全で他界された。享年78才。



2001年7月16日 PHDレターでの最後のインタビューの時。

変わる村の生活

アジア・南太平洋地域の人々の住む環境もこの25年で大きく変化をした。道路ができ、電気も通るようになった。場所によっては携帯電話が普及しはじめている。十分とはいえなくても医療や教育にふれるようになってきた。自給自足の生活から、外部とのかかわりをもつ暮らしになってきた。それはお金を必要とする暮らしでもある。その急激な変化に順応できているかといえば、これまで比較的差のなかった村の中に格差が生まれ、歪みも生じている。これまでとは違った新しい種類の問題が起こってきている。

自身が被爆者であり、医者になったことが平和と健康の大切さを訴える裏付けであり、その実現にモノ・カネだけで対処するのではなく、取り組む人を作ることを提案した。その具体化のためにアジア・南太平洋の草の根の人々への研修を実施し、それを支えることを兼ねて日本に住む人々に「分かち合い」を説き、質素な生活、時代に流されないことの必要を訴えた。

この必要は、提唱した25年前と比べ風化するどころか、これまで以上に求められる国内外の状況のように感じられる。今後、直接、先生からのメッセージを聴くことはできなくなってしまったが、託された言葉を受け止め、行動にし、広め続けさせていくことが、私たちの役割である。天国から見守っていただきたいと思う。

12月に訪ねた北タイ山岳地域の村では高品質のコーヒー栽培が軌道に乗り、あのスターバックスや日本のイオングループも仕入れるようになっていた。山道は舗装され、結構な稼ぎになっているようだ。しかし、これまでマチの商売人、ましてや外国の企業とやりとりがなかった村人たちが、対等な立場で息の長いビジネスにつなげることができのだろうか。公正で継続性がありかつ、生産現場においては環境破壊、劣化のないものでやれるのだろうか。

自分たちの足元の問題

いまや山の中の村とはいえ、マチとつながり、外国とつながっている。その地の問題が、その自然条件と人々

だけによってあるのではなく、外からの影響によって引き起こされることもある。それは負のグローバリゼーションであり、日本から発せられるものだけであるのかもしれない。

一方で、私たちの住む日本の社会の状況もけっしてアジア・南太平洋からやってくる人々へのお手本になるものばかりではない。私たちが研修生に言っているように、「自分の地域のことは自分たちで解決が基本」だとすれば、私たちの抱える問題は私たちが取り組まなければ解決しない。自分のことだけでなく、世の中のこと、身の回りのことにまずは興味、関心を持つ。そして気がつき、自分でできる何かをはじめ。こうして日本がまともになっていけば、日本から海外への影響もよいものに変化していく。直接かかわる国際協力だけでなく、まわりまわったことになるが、しかし根源的な協力が大切だと思う。このことにPHDの様々なプログラムがもっと機能するようにしたいと思う。

もっと共に学ぶ

自分たちの生活が世界とつながっていることを、研修生と出会ったり、スタディツアーに参加して知ること。海外の様々な問題について考えとともに海外研修生が日本で学ぶことを通して、足元の問題にも気づくこと。

知り、気づいたら、今度はそれにどうかかわるかを考え、日々の生活の中で行動をすること。

ここにPHDはかかわっていきたい。既にあるプログラムに加え、新年度は「研修生サポーター」制度を始めたい。これは海外からやってくる研修生の一年につきあって支え、同時に学ぶもの。現在、詳細を検討中、興味のある方はぜひお問い合わせを。

総理事代行 藤野達也

変わりゆく村 変化する自分

第23回 タイスタディツアーレポート

昨年末から年始に行われた北タイ、カレンの村への旅は、少人数でしたがプログラムは盛りだくさん。布グループとの交流で手織り体験をしたり、タイのコーヒー事情も勉強しました。研修生も元気でした。

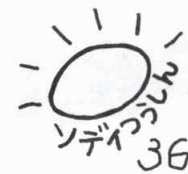
絵の役割とは？

勝手ながら、タイスタディツアーでの目標は、1. 常に描きまくる 2. タイの子たちに描いてもらう 3. 絵の役割は何かを考えるなどなど。

2日目、3日目のポケオ村で、空を見ても土を見ても真っ赤な朝に牛の赤ちゃんが誕生していて、しかもその前日偶然母牛を描いていました。生命に関する出来事だったからかも知れませんが、偶然が重なると偶然でない気がしてきました。



クリスマスの礼拝に集まる村の人



ソディとは、カレン語で卵のこと。タイの布のグループを支えるボランティアグループです。

タイのおばちゃん達と布を通じた交流が始まり“15年”。一言で言ってしまうとそれまでだが、ソディ通信を読み返しながら、その歴史の流れをしみじみと思った。

この年月は、村の生活を大きく変えてきた。今でこそ、フェアトレードという言葉が浸透してきつつあるが、始まった頃には聞かれなかったことだろう。このようなやり取りが続けられてきたのも、村の人たちの理解があり、そして、この活動を支えてくれる多くの人の力があってからだと思う。



新しいサンプルを披露してくれました。やる気を感じます。

4日目5日目のムシキーでは自然を身近に感じていたような気がします。村の教会（藁を敷いた木造）に行った時は特に。運よく豚の解体を見ていた時、3才くらいの女の子が豚の顔を凝視していました。この子は食べ物としてみているのかな、それとも死んでると思ってみているのか？こんな幼いころから一生を見るってどういうことなんかな。

日本では学校の環境にどっぷり浸っていたことに気付きました。芸術は特別ではないけれど、特殊な分野だったんですね。わからないことはわからないままでしたけど、現実とどう向かい合いながら描いていったらいいのか、また新しい課題ができました。充実した旅だったと思っています。

梅田祐希 (大学生 広島市)

コーヒー産業の行方は・・・？

待ちに待ったホイホン村。こんな奥に？というくらい長い道のりの途中の林道工事がコーヒーロードを思わせる。

村のグループとの関係は、これからも改善していくところがあると思うが、この交流を通して国際協力を考えていく1つのきっかけとなり、村のさらなる活気につながれば嬉しい。手作りのものには1つ1つ物語があるということを、今回のタイで考えた。

「彼女の研修内容をアレンジしていくところからソディが関われば！」と、ポーディーニャさんの来日を目前に気合が入る。彼女の研修が良いものになるように、そして、これからも私たちに多くの気づきの場を与えてもらえるように、PHDらしい物語を作っていきたい。佐藤栄利子
*売り手と買い手が顔の見える公正な取引

大分県がモデルとなった「一村一品」運動こと、タイの「OTOP」事業。その看板と大きなホイホン村へのゲートめぐり、ホイホン集落へと入場する。コーヒーの木は、多種と混林した日陰のある場所でない豆はできないそうである。それが功を奏するであろう、コーヒー園の規模拡大のために森林伐採がされる可能性の少ないことにほっとした。収穫量の実に9割が日本のイオングループを含め海外市場に出ているが、タイのOTOP事業として政府の援助で焙煎機を購入したりグループでも機械を購入し、村で売る用にパッキングしITDP*支援の下にチェンマイの「ランナカフェ」に卸している。こちら側のビジネスとしては、一定の品質をクリアした安定量を供給することが一般的であるが、勝ち負け切り捨ての資本主義経済に、どうか呑まれるばかりでなく変化して欲しいと願う。

長田有加里 (元青年海外協力隊員 徳島市)

* Integrated Tribal Development Project タイ北部山岳民族の生活向上のためのプログラムを行っている。

帰国研修生短信

ベリポーさん (99年度)



2児の母です。11月から2ヶ月ほど家族でムシキー村に滞在していました。次年度の研修生ポーディーニャさんへ先輩としてアドバイスも。

ブンシーさん (00年度)

今回会うことはできませんでしたが、昨年3月に結婚し、今年3月頃出産予定とのこと。現在、お連れ合いさんの仕事の関係でヤラー県にいます。少し体調が心配です。

プリチャーさん (85年度)



麵工場、お店建設予定もあり多忙な日々です。子どもの教育にも熱心で、息子のシューキヤさんは11月頃来日し、研修の予定。また個人の利益だけを追求することなく、正当な仕事に就くことが難しいビルマからの移民を雇用したりもしています。



NO.3 尾崎の有機豆腐

信頼のできる農家でできる大豆、そして豆腐へのこだわりを持ち続ける職人技。食べる人を幸せにする心のこもった豆腐たち。シリーズ第3回は、日本だけでなく世界で注目されている食品である豆腐にかけた尾崎さんの思いを紹介します。

「国産有機大豆100%の豆腐」はメダカと同じだ。どこにでも存在している。そうであるが実は絶滅危惧種である。そんな希少な豆腐を生産しているのが、神戸市西区の尾崎食品。

35年前に豆腐作りを始めた尾崎義隆さんが直面したのは、国産大豆のコスト高。国産大豆は輸入品に比べ10倍もの価格差がある。日本食の代表格である豆腐のほとんどが輸入大豆で作られている、というこの国の現実。

また、いいものが必ず売れるとは限



義隆さん、章江さん。店内もあったかい雰囲気になっています。

らない。「好みは人それぞれ。うちのを美味しいと言う人もいれば、安価な市販品の味に慣れている人もいる」妻の章江さんはそう言う。

しかしそれでも、「自然でない食べ物は毒だ」と言い切る義隆さんは、安全かつ自然な豆腐作りにこだわる。大豆は信頼できる金沢と北海道の生産者から。にがりは伊豆大島の天然海水原産。

万人受けすることではなく、あくまで自分達の価値観を大切に。本物を目指すその姿勢からは、盲目的な利益追求や偽装など微塵にも感じられない。

工場の隣には豆腐専門の料理店「亜蔵」もオープン。豆腐のサラダに始まり豆乳鍋、湯葉の刺身、厚揚げ豆腐、

そして豆腐のデザート。まさに至れり尽くせり豆腐尽くし。また店内では各種の豆腐のほか、尾崎さんと志を同じくする「兵庫県有機農業研究会」の食品も購入可能。

たまには本物の豆腐を食べるという贅沢をしてみてもいい。

菅原宗晋



豆腐コースの一部です。大豆の濃厚な味がたまりません。

お問合せ先

尾崎食品株式会社 とうふ工房 亜蔵
とうふ直売&とうふ料理

伊川谷店
〒651-2114 神戸市西区今寺37-6
tel: 078-978-2500
大久保店
〒651-2412 神戸市西区竜が岡4-1-1
tel: 078-967-7768
http://www.osaki-s.com/akura/index.html
E-mail: info@ozaki-s.com

私の訪問記 VOL.4 藪田仁一さん

かつてタイに住み、タイ語通訳でPHD協会と関わり始めた藪田さん。年末に行われた研修指導農家の吉田吉彦さん（兵庫県丹波市氷上町）宅でのお餅つきに二人の子どもさんと参加されました。

12月最後の日曜日、氷上町の吉田さん（おじいちゃん）宅のお餅つきに、研修生と一緒に、子ども連れで参加。

今回は、12月の寒波のおかげで山も畑も雪だらけ。ただし、寒がっているヒマなどなく、じきにおじいちゃんから杵を持たされるのが常。もっとも、今年はハリキリすぎて、私は数時間したらもう杵が全く振られなくなってしまった。こういうときに強いのは研修生。使い慣れた鋤鋤と同じ要領なのか、振り下ろしたときの音が違う。一人で一臼をつききるのが珍しいのに、いつ

だったか、女性が一臼つききったのには驚いた。

毎年、50人ほどの人が餅つきに来る。田舎だから親族・親戚が多いのかと思っていたら、そんな人はごく一部。大半は有機農業と関わっている方々で、おじいちゃんの作った野菜を給食にしている西宮市のはらっぱ保育所の先生方も、お手伝いに来ている。こうやって人と人が繋がっていくのだと実感。

初めてお餅つきに行った時には、小学校1年だった娘が今5年生。毎年、おじいちゃんに『大きくなったなあ』と言われながら、一つずつできることが増えて、今回はかなりしっかりとお餅がつけるようになっていた。三つ下の長男は、大阪では普段見ることのない、膝まで埋まる雪で遊びに専心。それで

も関わる人のおかげで、いろいろな体験をしながら成長している(はず)。

先日、友人の家でいわゆる餅つき器で餅をこねた(?)ののだが、取り出した餅は柔らかすぎて、固くなるのが早い。臼でついた餅は違う。冷えてもすぐには固くならない。夕方、氷上町からの帰り、電車を待つ間にもう一つ。うちで夜にまたもう一つ。まだまだ柔らかかなくて、そのままおいしくいただきました。やっぱり手間暇かけたものには強さがある・・・苦勞することは無駄じゃない。



娘の絢ちゃん。リズム良くベッタベッタ。

日本の林業のゆくえも



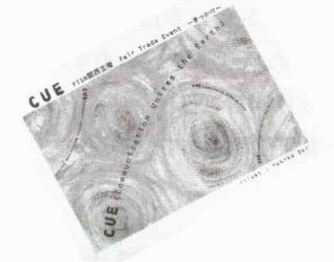
11月12日、13日に兵庫県篠山市にて大山振興会との共催で、第15期林業体験合宿「枝打」が行われました。夜には、「日本の間伐材のゆくえ」をテーマに、日本の林業の状況を世界と比較しながら学びました。参加者の方から、「もっと地域の山に登り、山の現状を自分の目で見るのが大切では」という提案もあり、関心の高さを感ずる2日間でした。

大学とつながる

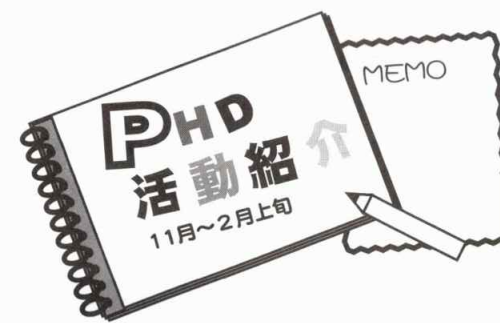


この秋冬は、多くの大学で講演、講義、行事参加がありました。帝塚山学院大、立命館大、桃山学院大、関西学院大、龍谷大、人間環境大、東海大、恵泉女子大、梅光学院大、神戸大等々。11月12日には、龍谷大学で「NGO フェスタ in 関西」が行われ、職員佐藤が座談会に。スタディツアーの魅力についてお話をしました。

広がる 学生の輪



12月11日、関西圏の学生が集まって行われたCUE (Communication Units the Earth) ～きっかけ～のイベントでトークライブやフェアトレード商品の展示販売に参加しました。ここからのつながりで、西日本研修旅行で立命館アジア太平洋大学 (APU) にも訪問することに。大学生とのネットワークが広がりました。



この秋冬は、幅の広いつながりができました。講座、相談、バザーなど多方面で行われた活動を紹介します。

研修生、シルバー世代と歌う新年会



神戸市シルバーカレッジで1月7日新年会が行われ、研修生3人が参加しました。57才以上の方が通うことができる大学で、日頃からPHDの活動にも加わっておられます。研修生とシルバー世代の方とは、考え方や価値観など共通点も多く、上達した日本語で盛り上がりました。また、研修生が大好きな沖縄の歌「花」や「涙そうそう」を皆で歌いました。

研修生、初めてのソリに興奮



1月26日、西日本研修旅行で岡山の新見市立千屋小学校を訪問。5年、6年生との交流会で研修生の国について紹介をしました。その後、研修指導者の吉田元一さんが作る野菜や米を使ったおいしい給食を全校生徒と一緒に。食後は、初めてのソリで遊びました。大はしゃぎで子どもに戻ったような気持ちだったとテーさん。雪を満喫しました。

PHD NEWS

◆ 会費・ご寄附寄託状況

2005年10月	78件	33,469,032円
11月	108件	2,893,742円
12月	698件	5,328,689円
2006年1月	141件	2,225,240円
	1,025件	43,916,703円

上記の通り、多くの皆様より頂戴したご浄財を通して、23期研修生は、元気に研修に励むことができました。ご協力に心より感謝申し上げます。皆様のあたたかいご支援のもと、ご期待に沿うよう使わせていただきます。

◆ KOBE発フェアトレード

神戸を中心とした国際協力団体が集まり、フェアトレードについての理解を広めるためバザーを行います。

と き：5月14日（日）

ところ：北野工房のまち（神戸市）

◆ 教師海外研修報告書、お分けします。

昨年夏にJICA兵庫から受託したプログラムの報告書が完成。タイでの経験を生かした授業実践の報告。送料分切手390円をお送り下さい。お届けします。

◆ Tシャツが新しくなります。

昨シーズン、オーガニックコットンのTシャツの限定販売は好評でした。今年は本格的にやります。インドの契約農家の綿花を使ったシャツを予定。お楽しみに。

◆ スタディツアー訪問先決定！

今年のツアーはこの3本。帰国研修生に会いに行きませんか。

- ・ビルマ（2006年7月15日～7月22日）
- ・インドネシア（2006年8月22日～8月31日）
- ・タイ北部（2006年12月23日～2007年1月2日）

◆ 国内スタディツアーやります。

海外研修生が毎年訪れている水俣に国内ツアーを計画中。詳細は次号で！

○月×日のPHD協会

職員 佐々木 新人に場数をふまそうとの親心から、西日本研修旅行は留守を守り後方支援に徹する。しかし風邪ひき、事務所で低調な毎日だったとか。

職員 高垣 西日本研修旅行は先発隊。運転より地図読みの才能を期待され助手席へ。指示をだした後はしばしば静かな半目状態・・・との有力証言有り。

職員 佐藤 前夜の予習にもかかわらず北九州から下関への車移動で道を間違え、大パニック。マスラルさん不安、ロナルドさんあきれ、テーさん静観。

職員 藤野 研修旅行合流のためフェリーで別府へ。夜景を見ながらと楽しみにしていたお風呂は、出航まもなく終了。弁当食ってる場合じゃなかった。

職員 因幡 車で移動の西日本研修旅行。岡山のコイン駐車場で、何も停まっていない別のワクの精算機にお金を投入しかけ、お姫様ぶりを改めて披露。

（一人寂しく食事をする人が多い順）

第24期生 4月13日に来日します。 どうぞよろしくお願ひします！



スリヤ・プットラさん（22才・男性・インドネシア）

好奇心旺盛で子ども好き。ダンスも得意で、子どもたちの人気者。村では、ウジャン（坊ちゃん）と呼ばれ、皆に親しまれています。牛の飼育を中心とした農業に取り組んでいます。



ポーディーニヤさん（37才・女性・タイ）

久しぶりにタイから来ます。長い間、布グループで活動しており、他のメンバーからも信頼されています。裁縫や布の加工を学び、村の人たちに教えることを楽しみにしています。自慢の織り機も持ってやってきます。



スूसーテインさん（27才・女性・ビルマ）

村では、学校の先生をしています。ところが給料はもらえないボランティアの先生。農業や家事も手伝いながら、十分な教育が受けられない子どもたちの役に立ちたいと熱心です。

編集後記

PHD協会と関わり始めてもうすぐ1年。研修生をはじめ事務所でいろんな人に出会いました。はじめはものすごく緊張して

研修生と話すのもやっとだったけれど、今では事務所に来ている人とお話するのが私の1つの楽しみになっています。

去年の夏にはインドネシアのツアーに参加しました。生まれて初めて訪れた場所で、初めて出会った多くの人たちと仲良くなり、様々なことを学ぶことによって、今まで見

えてこなかったものが、目に見えて実感できるようになりました。そんなツアーを体験させてくれたPHDに感謝するとともに、私の元気の源であるこの事務所にこれからも関わっていきたくです☆ (A)

制作協力

菅原宗晋、川畑千春、荒木里奈子